

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月5日
【四半期会計期間】	第62期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	株式会社神鋼環境ソリューション
【英訳名】	Kobelco Eco-Solutions Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 粕谷 強
【本店の所在の場所】	神戸市中央区脇浜町1丁目4番78号
【電話番号】	神戸 078(232)8032
【事務連絡者氏名】	財務部長 笹倉 隆一
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区脇浜町1丁目4番78号
【電話番号】	神戸 078(232)8032
【事務連絡者氏名】	財務部長 笹倉 隆一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第2四半期連結 累計期間	第62期 第2四半期連結 累計期間	第61期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (百万円)	27,171	31,842	68,133
経常利益 (百万円)	378	634	3,004
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	183	346	1,656
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	290	385	1,822
純資産額 (百万円)	19,248	20,518	20,850
総資産額 (百万円)	46,283	54,919	57,879
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	2.28	4.30	20.56
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	41.5	37.2	35.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	14,160	2,127	13,755
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,802	1,373	5,472
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	9,136	780	7,934
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	1,402	1,587	1,530

回次	第61期 第2四半期連結 会計期間	第62期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.13	1.64

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第2四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、廃棄物処理関連事業の株式会社さしま環境サービス、株式会社中津川環境サービス、株式会社射水環境サービス及び株式会社岩出環境サービスはごみ処理施設の運営管理事業を開始したため、第1四半期連結会計期間より新たに連結子会社となりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国の景気減速懸念等の影響により先行きに不透明感はあるものの、金融及び財政政策などの経済対策を背景に、企業の収益改善や設備投資の増加等があり、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況のもと、当社グループでは、本年度を最終年度とする中期経営計画の基本方針、「業界でのレベル向上」、「海外における成長機会の追求」、「モノだけの価値から、サービスも含めた価値による事業形成への転換」、「新規メニュー、新規事業の創出」に沿って、諸施策を着実に実施してまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、水処理関連事業及び化学・食品機械関連事業での受注が増加したことにより、受注高は前年同期に比べ1,344百万円増（3.0%増）の46,621百万円（内、海外1,812百万円、前年同期比90.9%増）となり、受注残高は前年同期に比べ1,528百万円減（2.3%減）の63,810百万円（内、海外4,245百万円、118.2%増）となりました。

売上高は廃棄物処理関連事業の既受注大型案件の工事進捗などにより、前年同期に比べ4,670百万円増（17.2%増）の31,842百万円（内、海外1,100百万円、前年同期比10.2%増）、営業利益は前年同期に比べ257百万円増の598百万円、経常利益は前年同期に比べ255百万円増の634百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ163百万円増の346百万円となりました。

報告セグメントごとの業績は次のとおりです。

#### （水処理関連事業）

水処理関連事業につきましては、売上高は前年同期並の13,239百万円となりましたが、案件構成の変化や一部の固定資産の耐用年数見直しによる減価償却費の増加等もあり、経常損益は前年同期に比べ425百万円悪化し、1,151百万円の損失となりました。

#### （廃棄物処理関連事業）

廃棄物処理関連事業につきましては、既受注大型案件の工事進捗などにより、売上高は前年同期に比べ5,162百万円増の15,542百万円、経常利益は前年同期に比べ798百万円増の1,362百万円となりました。

#### （化学・食品機械関連事業）

化学・食品機械関連事業につきましては、売上高は前年同期に比べ544百万円減の3,146百万円、経常利益は前年同期に比べ175百万円減の79百万円となりました。

#### （2）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、仕入債務の減少、法人税等の支払等の支出要因がありましたが、売上債権の減少等の収入要因があり、前連結会計年度末に比べ57百万円増（前年同期は444百万円増）の1,587百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果支出した資金は、2,127百万円（前年同期は14,160百万円の取得）となりました。  
これは主に仕入債務の減少2,243百万円によるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果取得した資金は、1,373百万円（前年同期は4,802百万円の支出）となりました。  
これは主に短期貸付金の減少1,859百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果取得した資金は、780百万円(前年同期は9,136百万円の支出)となりました。

これは主に短期借入金金の増加1,069百万円、長期借入れによる収入530百万円、配当金の支払額724百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題につきましては重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動に係る費用は594百万円であります。

また、当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の主な状況の変更内容は、次のとおりであります。

(水処理関連事業)

当社技術研究所内に設置した閉鎖型の1m<sup>3</sup>培養槽を用い、従属栄養培養方式(生育に必要な炭素を有機化合物の形で生物に与える培養方法)によるユーグレナ(光合成を行う植物的性質と“すじりもじり”運動をする動物的性質を兼ね備えた生物)の培養を、回分培養(1回毎に新たな培地を用いる培養方法)から流加培養(培養中に培地成分を追加供給し、生産性を維持・向上させる培養方法)に改良することで、バイオマス生産性が約2倍(当社比)となることを確認しました。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しに重要な変更はありません。

(6) 経営者の問題意識と今後の方針

当社グループを取り巻く事業環境が依然として厳しい状況の中、当社グループは以下の事業に係るさまざまなリスクをコントロールしつつ取り組んでまいります。

- 国内での事業環境変化
- 海外での事業環境変化
- 子会社等が実施する事業での事業環境変化
- 資機材調達コストの変動
- 販売後の製品への保証
- 災害・事故等の発生
- 環境法規制等の変化への対応

当社グループの総力をあげて重点施策への取り組みを引き続き推進するとともに、J-SOXをはじめとするリスク管理及びコンプライアンスをなお一層重視した経営を徹底してまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	260,000,000
無議決権株式	60,000,000
計	320,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	80,600,000	80,600,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 1,000株でありま す。
計	80,600,000	80,600,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	80,600,000	-	6,020	-	3,326

(6)【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社神戸製鋼所	神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2-4	45,230	56.12
みずほ信託銀行株式会社(退職 給付信託神戸製鋼所口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	17,016	21.11
神鋼商事株式会社	大阪市中央区北浜2丁目6-18	1,200	1.49
神鋼環境ソリューション従業員 持株会	神戸市中央区脇浜町1丁目4-78	1,180	1.46
株式会社神鋼エンジニアリン グ&メンテナンス	神戸市灘区岩屋北町4丁目5-22	403	0.50
日本生命保険相互会社	大阪市中央区今橋3丁目5-12	400	0.50
KBC SECURITIES N. V. (常任代理人 香港上海銀行)	HAVENLAAN 12, BRUSSELS (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	330	0.41
大和ハウス工業株式会社	大阪市北区梅田3丁目3-5	301	0.37
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタート ラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4-5 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	275	0.34
第一生命保険株式会社 (常任代理人 資産管理サービ ス信託銀行株式会社)	東京都千代田区有楽町1丁目13-1 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	250	0.31
計	-	66,585	82.61

(注) みずほ信託銀行株式会社(退職給付信託神戸製鋼所口)名義の株式17,016千株は、株式会社神戸製鋼所が保有する当社株式を退職給付信託に抛出し、その議決権行使の指図権を留保している株式であります。

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 19,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 80,537,000	80,537	(注)
単元未満株式	普通株式 44,000	-	-
発行済株式総数	80,600,000	-	-
総株主の議決権	-	80,537	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、2,000株(議決権2個)含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社神鋼環境 ソリューション	神戸市中央区脇浜町 1丁目4番78号	19,000	-	19,000	0.02
計	-	19,000	-	19,000	0.02

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,530	1,587
受取手形及び売掛金	27,669	23,832
電子記録債権	293	891
商品及び製品	17	11
仕掛品	1,350	2,720
原材料及び貯蔵品	486	712
繰延税金資産	2,822	2,650
短期貸付金	3,882	2,023
その他	1,357	1,720
貸倒引当金	94	47
流動資産合計	39,316	36,104
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	15,798	15,454
減価償却累計額	8,388	8,705
建物及び構築物(純額)	7,409	6,749
機械装置及び運搬具	10,037	9,819
減価償却累計額	7,521	7,943
機械装置及び運搬具(純額)	2,515	1,876
土地	3,700	3,698
建設仮勘定	173	1,791
その他	1,419	1,412
減価償却累計額	1,209	1,216
その他(純額)	210	195
有形固定資産合計	14,010	14,311
無形固定資産	453	448
投資その他の資産		
投資有価証券	747	730
繰延税金資産	1,521	1,509
退職給付に係る資産	1,209	1,219
その他	750	729
貸倒引当金	129	133
投資その他の資産合計	4,099	4,055
固定資産合計	18,562	18,815
資産合計	57,879	54,919

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,657	15,245
短期借入金	1,440	2,448
未払法人税等	1,802	125
未払費用	2,252	1,906
前受金	1,399	2,456
製品保証引当金	4,091	3,794
工事損失引当金	390	220
その他	2,628	2,180
流動負債合計	31,663	28,378
固定負債		
長期借入金	-	530
リース債務	499	465
退職給付に係る負債	4,785	4,945
その他	80	81
固定負債合計	5,365	6,022
負債合計	37,028	34,400
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,020	6,020
資本剰余金	3,330	3,332
利益剰余金	11,840	11,460
自己株式	5	5
株主資本合計	21,186	20,807
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	130	145
繰延ヘッジ損益	25	16
為替換算調整勘定	116	110
退職給付に係る調整累計額	698	645
その他の包括利益累計額合計	425	372
非支配株主持分	90	84
純資産合計	20,850	20,518
負債純資産合計	57,879	54,919

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日)
売上高	27,171	31,842
売上原価	22,179	26,572
売上総利益	4,992	5,269
販売費及び一般管理費	1 4,650	1 4,670
営業利益	341	598
営業外収益		
受取利息	9	8
受取配当金	10	6
投資有価証券売却益	0	-
貸倒引当金戻入額	37	43
分析料収入	8	4
その他	23	17
営業外収益合計	89	81
営業外費用		
支払利息	22	14
為替差損	-	19
その他	29	12
営業外費用合計	52	46
経常利益	378	634
税金等調整前四半期純利益	378	634
法人税、住民税及び事業税	138	146
法人税等調整額	56	155
法人税等合計	195	301
四半期純利益	182	332
非支配株主に帰属する四半期純損失 ( )	0	14
親会社株主に帰属する四半期純利益	183	346

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	182	332
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27	15
繰延ヘッジ損益	7	8
為替換算調整勘定	20	6
退職給付に係る調整額	51	52
その他の包括利益合計	107	53
四半期包括利益	290	385
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	291	399
非支配株主に係る四半期包括利益	0	14

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	378	634
減価償却費	806	896
製品保証引当金の増減額(は減少)	430	296
工事損失引当金の増減額(は減少)	93	169
貸倒引当金の増減額(は減少)	37	43
退職給付に係る資産負債の増減額	50	229
受取利息及び受取配当金	19	15
支払利息	22	14
投資有価証券売却損益(は益)	0	-
売上債権の増減額(は増加)	18,653	4,301
たな卸資産の増減額(は増加)	593	1,594
仕入債務の増減額(は減少)	2,451	2,243
未払又は未収消費税等の増減額	1,374	1,086
その他	88	995
小計	14,822	368
利息及び配当金の受取額	19	15
利息の支払額	23	14
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	658	1,759
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,160	2,127
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,735	1,048
無形固定資産の取得による支出	48	55
固定資産取得に伴う補助金収入	-	537
投資有価証券の取得による支出	101	-
投資有価証券の売却による収入	12	-
短期貸付金の増減額(は増加)	2,931	1,859
その他	1	80
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,802	1,373
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(は減少)	8,228	1,069
長期借入れによる収入	-	530
長期借入金の返済による支出	142	62
配当金の支払額	724	724
その他	40	32
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,136	780
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	11
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	227	38
現金及び現金同等物の期首残高	958	1,530
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	216	19
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,1402	1,587

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間において、株式会社さしま環境サービス、株式会社中津川環境サービス、株式会社射水環境サービス及び株式会社岩出環境サービスはごみ処理施設の運営管理事業を開始したため、新たに連結の範囲に含めております。

(会計上の見積りの変更)

(固定資産の耐用年数の変更)

当社が保有する一部の固定資産について、第1四半期連結会計期間より従来採用していた耐用年数から将来の使用想定を反映した耐用年数に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法に比べて当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ126百万円減少しております。

(追加情報)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)第39項に掲げられた定め等を適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
給料手当	1,158 百万円	1,093 百万円
退職給付費用	99	91
見積設計費	836	887

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	1,402 百万円	1,587 百万円
現金及び現金同等物	1,402	1,587

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	725	9.0	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	725	9.0	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水処理 関連事業	廃棄物処理 関連事業	化学・ 食品機械 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,102	10,379	3,689	27,171	-	27,171
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	1	1	1	-
計	13,102	10,379	3,691	27,173	1	27,171
セグメント損益	726	564	254	92	286	378

(注) 1. セグメント損益の調整額286百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用及び営業外収益等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費(報告セグメントへの配賦差額を含む)であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水処理 関連事業	廃棄物処理 関連事業	化学・ 食品機械 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,158	15,542	3,141	31,842	-	31,842
セグメント間の内部 売上高又は振替高	81	-	5	86	86	-
計	13,239	15,542	3,146	31,928	86	31,842
セグメント損益	1,151	1,362	79	290	344	634

(注) 1. セグメント損益の調整額344百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用及び営業外収益等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費(報告セグメントへの配賦差額を含む)であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(固定資産の耐用年数の変更)

「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、一部の固定資産について、第1四半期連結会計期間より、将来の使用想定を反映した耐用年数に変更しております。

この変更に伴い、従来の方によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益が「水処理関連事業」で126百万円減少しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円28銭	4円30銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	183	346
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	183	346
普通株式の期中平均株式数(千株)	80,582	80,580

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月5日

株式会社神鋼環境ソリューション

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 北山 久恵 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 東浦 隆晴 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社神鋼環境ソリューションの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

**四半期連結財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

**監査人の結論**

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社神鋼環境ソリューション及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含んでおりません。